

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

Web情報を活用した自動献立作成のための 多目的遺伝的アルゴリズムによる 並列分散処理

安藤 祐斗

富山県立大学 電子情報工学科
t815008@st.pu-toyama.ac.jp

January 21, 2022

1.1 本研究の背景

2/15

背景

近年、生活習慣病を患う人々が増加している。生活習慣病とは「食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒、ストレスなどの生活習慣を原因として発症する疾患の総称」のことであり、深刻な疾患に深く関与している。これを防ぐためには、過度な喫煙や飲酒を控えることや、栄養バランスのとれた献立の作成をすることが重要視されている。また、学校給食や病院食の現場で献立作成業務を担当している栄養士は、栄養バランス、食事にかかる金額などを設定する作業を、繰り返し見直す必要があるため、献立作成の負荷は高いことがわかる。

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

1.2 本研究の目的

3/15

目的

栄養バランスの取れた献立を作成するには、メニューの組み合わせや栄養価の計算を考慮する必要があり、献立を考えることは面倒だと考える人は少なくない。そこで本研究では、献立作成をコンピュータにより自動的に行い、さらに並列分散処理を施すことによって実行速度の向上を図る。

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

2.1 自動献立作成支援システムの概要

4/15

自動献立作成支援システム

自動献立作成支援システムとは、システムを利用するユーザにとって最適な献立を、コンピュータにより自動で生成することができるシステムである。

従来研究

- ・ 単目的最適化による線形計画法を利用した研究
- ・ ユーザーとの対話型処理によって献立を作成していく研究
- ・ 必要栄養素に対して曖昧さを表現できる、ファジィ数理計画法で献立を作成する研究

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要

3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム

4. 提案手法

5. 数値実験並びに考察

2.2 Web 上のレシピデータを活用

5/15

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム

4. 提案手法

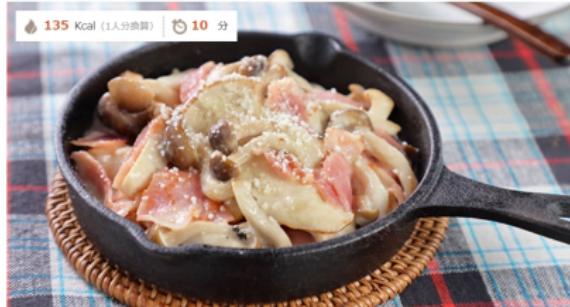
5. 数値実験並びに考察

レシピ検索 材料名を入力 カロリーを指定しない 効率・効能を指定しない 検索

注目キーワード 白菜 肉 魚のこ 緑 しょうが さつまいも 免疫 はうれんそう 凍え性

ホーム > お手軽のことベーコンのマヨ炒め

135 Kcal (3人分換算)
10 分



お手軽のことベーコンのマヨ炒め

印刷する

このレシピを見た人へのおすすめレシピ

- [野菜いっぱいの炒め物](#)
- [もちのホットサラダ](#)
- [オムレツのきのこソース](#)



図 1: ポブとアンジーのレシピページ例

2.3 多目的最適化による自動献立作成

6/15

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム

4. 提案手法

5. 数値実験並びに考察

献立作成における目的関数・制約条件

献立における制約条件として、何日分の献立を作成するか、カロリーをどのくらい制限するか、特定の栄養素を最低でもどのくらい取得するか、などが挙げられる。また、目的関数として、調理時間の最小化や個人の嗜好の最大化、材料コストの最小化などが挙げられる。

組み合わせ最適化

献立作成の最適化に用いられることがある、組み合わせ最適化問題は、決められた制約条件の中で、目的関数を最大または最小となるパラメータの、組み合わせの解を探索するものである。組み合わせ最適化問題の代表的な例の一つとして、ナップサック問題や、巡回セールスマン問題などが挙げられる。

3.1 多目的最適化とパレート最適解

7/15

多目的最適化

ある制約条件のもと、複数の目的関数を最大化、あるいは最小化する最適化法である。全ての目的関数を最大化、あるいは最小化するような最適解が存在するとは言えないため、パレート最適という概念を導入する必要がある。

パレート解

ある目的関数を満たそうとしたときに、他の目的関数が犠牲になり満たされなくなってしまう解のことであり、一般的に複数存在する。パレート最適解集合が形成する面はパレート最適フロントと呼ばれている。

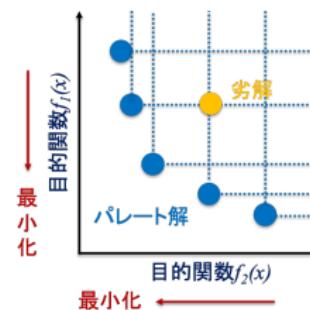


図 2: パレート解のイメージ

1. はじめに
2. 自動文献作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

3.2 遺伝的アルゴリズムによる多目的最適化

8/15

遺伝的アルゴリズム

遺伝的アルゴリズム（Genetic Algorithm: GA）とは、1975年に、ミシガン大学の John Holland が提案した近似解を探索するためのメタヒューリスティックアルゴリズムである。

NSGA-II

遺伝的アルゴリズムを多目的最適化問題に拡張したものであり、Goldbergにより提案された非優越ランキングソートである NSGA と比較して次の 3 点において改良、変更が行われている。

- エリート主義の導入
- 混雑度の導入
- 高速ソートの実現

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

3.3 並列分散処理による解法

9/15

並列分散処理

並列分散処理とは、複数台のコンピュータを用いて複数のCPUや、メモリを使うことで1つの計算処理を行い、性能や計算速度の向上を図ることである。とあるタスクをどう分散させ、どう実行するか、結果をどうやって求めるなどの問題があり、導入は容易ではなかったが、HadoopやApache Sparkなどの並列分散ソフトウェアが台頭したことによって並列分散処理の利用に対する敷居は低くなりつつある。

Dask

本研究で使用する並列分散処理ソフトウェアは、最適化問題を解く際に必要なPythonライブラリである、NumpyやPandasについて分散処理が可能なDaskを選択する。

4.1 調理時間とコストを最小化する パレート最適な献立

10/15

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

本研究では、献立に含まれる料理の調理時間の最小化と、その料理に必要な材料コストの最小化を目的関数として多目的最適化を行い、2つの目的関数の最小化と、制約条件に基づいたパレート最適な献立を出力する。

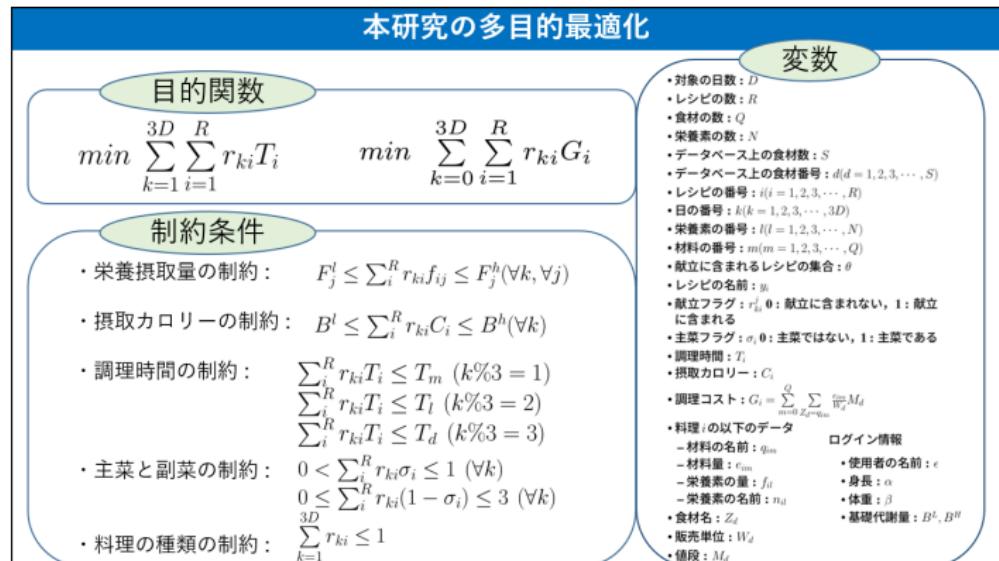


図 3: 献立の多目的最適化問題による定式化

4.2 対話による最適な献立の提示

11/15

対話型

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

対話型とは、ソフトウェアやシステム、機械などが、その利用者と相互に会話をするように作用することを意味する語である。対話型で処理を行うソフトウェアやシステムの具体例としては、利用者が次に選択したいものをディスプレイ上の音声や画像、動画などの形で提示することや、操作する利用者の意図を汲み取り、それに対して反応を返したりすることなどが挙げられる。

本研究では、多目的最適化によって得られた、調理時間と材料コストが最小化されたパレート最適解（レシピ）の中から、利用者が選択して献立を作成する際に対話型処理を行う。

4.3 提案システムの構成

12/15

提案システムの概要

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

1. レシピデータと食材価格データを Web サイトからスクレイピングし、データベースに蓄積する。
2. スクレイピングしたデータと、ユーザの基礎代謝量を入力として、摂取栄養素やカロリーなどの制約条件のもと、調理時間、コストの最小化を目的的関数に設定した最適化問題を、多目的 GA によって解く。
3. 1週間分の献立をユーザーに出力する。
4. 最適化の工程で複数の PC を利用し、分散処理を行うことによって実行時間向上を図る。

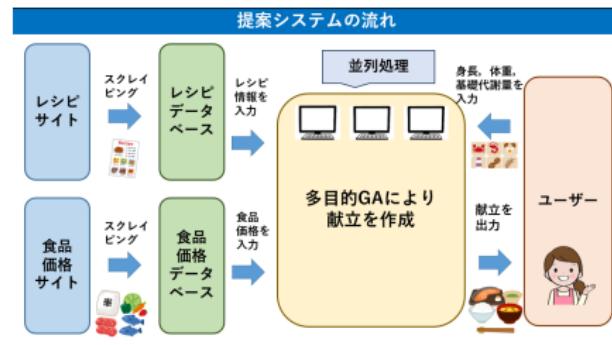


図 4: 自動献立作成システムの構成

5.1 数値実験の概要

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

1. レシピデータベース, 食材価格データベース, 栄養素データベースの内容の図
2. NSGA-II による最適化中の様子と説明
3. 出力されたパレート解の図
4. 対話型で献立を選択するときの様子
5. 1台, 2台, 4台で分散処理したときの各時間を計測する. 何回か計測して平均・分散を出す

5.2 実験結果と考察

1. はじめに
2. 自動献立作成の概要
3. 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム
4. 提案手法
5. 数値実験並びに考察

進捗

- はじめに
- 自動献立作成の概要
- 制約条件を考慮できる多目的遺伝的アルゴリズム

- 提案手法
- 数値実験並びに考察

進捗

- Dask で最適化の分散処理を行った。(4 台)
- 対話型処理の前準備として、出力される 1 週間分の料理データに対して正規化を行うようにプログラミング。

これからすること

- まだ解が出てないため、出るような NSGA2 のパラメータと入力レシピ数の調整をする。
- 対話型処理をする際のインターフェースを作成する。
- 出力結果をきれいにまとめられるようにプログラムの調整。